

(様式1) 実践事例

学校名	福島県福島市立青木小学校	校長名	須田 尊		
住所	福島県福島市飯野町青木字松保6	児童生徒数	66人	学級数	6
TEL	024-562-2149	ホームページアドレス	aoki-el@educet01.plala.or.jp		

少人数のよさを生かした指導方法の工夫・改善
～学び合いを生かして一人一人の表現する力を高め合う児童の育成～

1 少人数指導の方針

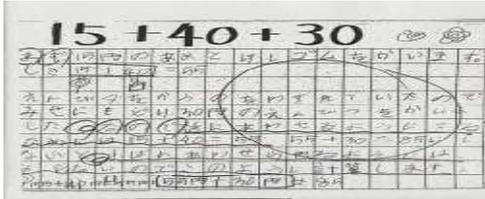
本校は1学級の児童数が4人から15人の人数構成をもつ6学級の小規模校である。今年度は、算数科を中心として、少人数のよさを生かしながら『学び合いを生かして一人一人の表現する力を高め合う児童の育成』を目指した教育活動を推進している。少人数指導を充実させるために、算数科において次の3点に視点をあて、少人数のよさを生かした授業づくりに取り組んでいる。

- <視点①> 学習意欲や学習の見通しをもたせるための工夫
- <視点②> 考えを明確にし、目的をもって学び合いをさせるための工夫
- <視点③> 学んだことを活用したり表現したりさせるための工夫

2 実践の概要 (第2学年 14名)

- (1) 単元名 「計算のくふう」
- (2) 本時のねらい
加法の結合法則と () の用い方を理解し、3口の数の加法計算ができる。
- (3) 本時における少人数指導の意図
 - <視点①>
児童の興味・関心のある問題場面を絵で提示することにより、一人一人の学習意欲を喚起し、主体的な学習を保障する。
 - <視点②>
自分で選んだ「自分の考えシート」に自分の考えを書かせ、説明し合う場を設定することにより、一人一人の発言の機会を増やし、多様な視点から学び合わせる。
 - <視点③>
お互いに学び合ったことを基に、教師が個に応じた声かけを行うことにより一人一人が本時の学習について自分の言葉でまとめ、表現力を高める。
- (4) 授業の実際

学習活動	少人数指導の実際
1 本時の問題を知り、課題をとらえる。 (1) 問題をとらえる。 まきさんは、15円のあめと40円のけしゴムをかいました。 えんぴつをかいわすれて、店にもどり、30円のえんぴつをかいました。 ぜんぶで、いくらつかいましたか。 (2) 立式する。15 + 40 + 30 (3) 本時のめあてをつかむ。 3つの数のたし算は、どうやって計算すればいいのかな。	① 教師が児童の反応を見ながら、問題場面を順々に絵で示したことにより、どの児童もどのような場面なのかを理解して、立式することができた。また、本時は「3口の計算をどうやって計算すればいいのかな」というめあてを自分たちで作り、工夫して考えようと、意欲的に学習に取り組んでいた。
2 15 + 40 + 30の計算の仕方を考える。 (1) 解決の見通しをもつ。 (2) 自力解決する。	② 自力解決の段階では、一人一人に、



【自分の考えシート】

- 3 考えを発表し合い、それぞれの考えの特徴や良さ・ちがいについて話し合う。
 (1) 同じ考え同士で説明し合う。



【小グループでの学び合い】

- (2) 全体で考えを発表する。
 ① 順序よくたす方法
 ② 40 + 30を先にたす方法
 (3) 特徴やよさ・違いについて話し合う。
 ① 時間の順序でたしている。
 ② 何十+何十で計算しやすい。
 ③ どちらも答えは同じになる。



【全体での学び合い】

- 4 本時のまとめをする。
 3つの数のたし算では、どこをさきにたしても答えは同じになる。
 5 練習問題を解く。
 6 本時の学習を振り返る。

自分に合った「自分の考えシート」を選ばせた。その後、机間指導でそれぞれの考えのよさを称賛し自信をもたせながら自分の計算方法を書かせた。

- ② 書き終わった児童から教師の支援を受けながら、「自分の考えシート」を同じ考えごとに分けて、ホワイトボードに貼っていった。まず、同じ考えごとにお互いの考えを説明し合う場を設けた。お互いに説明し合う場でも、その表現のよさや考えの良さを称賛した。自分たちで質問したり足りない部分を付け足したりして、全体での学び合いに生かす学習となった。

さらに、全体での発表の場では、自分の考えについてすべて一人に説明させるのではなく、他の児童に続きを説明させるなど、教師が児童の学びを適切に把握して、意図的に発問したり指名したりすることにより、お互いの考えのよさや違いに気付くことができるようにした。

- ③ 学び合いの場で、教師の意図的な称賛により、お互いの考えの良いところやまねしたい表現の仕方を見つけて、本時のまとめを自分の言葉で表現し、本時の学習を振り返ることができた。

3 実践の成果と課題

- 児童の興味・関心のある問題場面を設定し、問題文を絵で表して順々に提示したことにより、問題場面が理解しやすくなり、学習意欲を高めるのに有効であった。また、既習事項を手がかりに考えさせたことにより、主体的に学習に取り組ませることができた。
- 自分が使いやすい「自分の考えシート」を選んで書き、ボードに貼ってお互いに説明する場を作ったことにより、主体的に学習に取り組むことができた。質問し合ったりフォローし合ったりして、一人一人の発言の機会が増えた。その後の全体での話し合いでは、自信をもって発表し、多様な考えがあることを学び合うことができた。
- 絵や図で考えを表現した場合は自分たちで考えを分類することができたが、低学年では、言葉だけの考えを分類するのは難しかった。
- よりよい学び合いができるように、違う表現であっても実は同じ考えであることを教師が見抜いて児童に戻すといった教師のコーディネート幅を広げることが必要である。